

「日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）」は、河川再生について共に考え、次の行動へ後押しする未来志向の情報を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい河川再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的に活動する団体です。またアジア河川・流域再生ネットワーク（ARRN）の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、海外の素晴らしい取組みを国内に還元する役割を担います。

目次

	Pages
➤ JRRN 事務局からのお知らせ.....	1
➤ 会員寄稿記事.....	4
➤ 研究・事例紹介.....	7
➤ JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ.....	11
➤ 会議・イベント案内.....	12
➤ 書籍等の紹介.....	12
➤ 会員募集中.....	13

JRRN 事務局からのお知らせ (1) JRRN Activity Report

「水辺の小さな自然再生」の更なる普及に向けた今年度の取組み



JRRN では、昨年度、小さな自然再生の実践を通じてその技術普及に尽力されている専門家の方々、専門知識の社会への橋渡しの専門家、そして有志の若手研究者や実務者で構成される「小さな自然再生事例集編集委員会」を立ち上げ、委員会活動の成果を「水辺の小さな自然再生事例集」として本年3月に発行しました。

この事例集制作を通じては、市民が河川管理者と連携して小さな自然再生に取り組む上での留意点、また全国の先進的な実施事例から様々な工夫や課題が明らかとなり、小さな自然再生の更なる推進に向けては、事例紹介とともに小さな自然再生の考え方や進め方を丁寧に普及していくことが大切であると考えています。

そこで、平成27年度は、引き続き「小さな自然再生事例集編集委員会」の協力を得ながら、過年度成果の事例集を全国に普及するとともに、本分野の情報交換や交流のコミュニティを構築し、小さな自然再生の仲間と裾野を広げるべく、次の取組みを企画しています。

「水辺の小さな自然再生」の普及促進に向けた平成27年度のJRRNの取組み(案)

(1) 「小さな自然再生」現地研修会の開催

小さな自然再生に関わる先進的な取組みが行われている、またはこれから行おうとしているフィールド(2か所程度)にて、実施に際しての留意点や技術の習得を目的とした現地研修会を開催します。

(2) 「小さな自然再生」意見交換会の開催

小さな自然再生の事例や工夫等を共有するための意見交換会を開催し、その成果は講演録として普及します。

(3) 「小さな自然再生」簡易ホームページの制作

全国の水辺の小さな自然再生の実践事例、また上記の現地研修会や意見交換会の成果等を紹介する簡易なホームページを制作し公開します。

上記の実現に向け、JRRN事務局では、「小さな自然再生事例集編集委員会」メンバーとともに研修実施先や意見交換会のプログラム、またホームページの構成などについて企画調整を行っています。

それぞれの活動の概要が決まり次第、本ニュースレターやJRRNホームページ等を通じて皆様にご案内させていただきますので、引き続きご支援とご協力をよろしくお願い致します。

※本活動は、(公財)河川財団の河川整備基金の助成を受けて実施致します。
(JRRN事務局・和田彰)

「桜のある水辺風景 2015」優秀作品決定と写真集発行

JRRN では、日本の水辺の魅力を再発見できるような桜の水辺写真を今年も募集し、熊本から北海道まで、17 名の方々より 51 点の素敵な作品をご応募頂きました。そしてその中から、JRRN 会員へのアンケートにより優秀作品及び佳作作品（3 点）を選考させていただきましたのでご紹介させていただきます。

優秀賞



「草場川の桜並木と川を覗き込む老夫婦」
福岡県朝倉市・草場川
撮影◎渡部秀之

佳作



「筑前の小京都と言われる城下町秋月を流れる野鳥川の桜」
福岡県朝倉市・野鳥川
撮影◎渡部秀之

「山中溪の桜 2015年」
大阪府阪南市山中溪・山中川
撮影◎松野隆一



「下北山村の桜」
奈良県吉野郡下北山村
撮影◎中川智子

また、本企画に対するアンケート結果として、“「桜と水辺と子供達」、「桜と水辺と建物」などテーマ性を持たせてはどうか”、“これまでの作品をリスト化、あるいは地図上で整理して、年々の広がりが見えるようにしてはどうか”など、面白いご意見をいただきましたので、今後それらの意見も反映しながら皆様との協働で活動を発展していければと考えております。

皆様からご応募頂きました全作品をとりまとめた「桜のある水辺風景 2015 応募写真集」が完成致しましたので、ご覧頂ければ幸いです。



※「桜のある水辺風景 2015 写真集」はこちらから
URL: <http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/111>

以下、桜のある水辺風景 2015 “はじめに” (JRRN 代表理事 土屋信行) より抜粋。

“皆さんからの桜の写真を見ていると自然に音楽が流れているように感じます。桜の花は音のない世界ではなく、優雅な音との結びつきがあるのではないのでしょうか。箏曲に「さくら」という曲があります。桜の花から音楽を感じるのは古来から、日本人の共通の魂かもしれません。（中略）童謡や唱歌にさくらの花が歌いこまれた曲には「さくらさくら」、「ちょうちょ」、「思い出してごらん」、「ドキドキドン！1年生」、「花のお国の汽車ぼっぼ」、「春の歌」、「花」などがあり、今でも新しい曲にさくらをテーマにした曲が作曲されており、一説では 200 曲以上にもなるそうです。”

(JRRN 事務局・後藤勝洋)

「平成 27 年度 JRRN 理事会」開催報告 及び「JRRN 年次報告 2014」発行のご案内

2015 年 6 月 3 日 (水) に、日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN) の平成 27 年度 第 1 回理事会が開催されました。本理事会では、2 年前に施行した JRRN 定款に基づき、以下に示す議案について決議を行い承認されました。

平成 27 年度 第 1 回 JRRN 理事会

1. 開催日時: 2015 年 6 月 3 日 (水) 14:00-15:00
2. 開催場所: (公財) リバーフロント研究所 会議室
3. 議案:
 - 議案第 1 号 平成 26 年度 事業報告及び収支決算
 - 議案第 2 号 平成 27 年度 事業計画及び収支予算
 - 報告第 1 号 事務局の組織及び運営
4. 出席者
 - 代表理事 土屋 信行
 - 理事 伊藤 一正
 (佐合純造理事、白川直樹理事には、定款第 26 条に基づき事前に書面表決をいただいた)

合わせて、JRRN 理事と事務局による今後の JRRN 活動に関わる意見交換を行い、「水辺の小さな自然再生事例集」の様な質の高い成果を引き続き社会に生み出すことに努めながら、JRRN の持続発展的な運営に向けた寄付等の資金面の支援獲得や民間助成金などへの積極的応募の必要性などについて議論を深めました。本理事会の資料一式 (平成 26 年度事業報告、平成 27 年度事業計画) については、下記ウェブサイトよりご覧いただけます。

URL: <http://jp.a-rr.net/jp/news/info/585.html>



理事会の様子

また、本理事会での過年度事業報告の承認を経て、JRRN の平成 26 年度 (2014 年 4 月～2015 年 3 月) の活動を取りまとめた「JRRN 事業報告 2014」を作成し公開しました。(A4 版、全 4 ページ)

JRRN では、河川再生について共に考え、次の行動へと後押しする未来志向の情報を交換・共有することを通じて各地域に相応しい河川再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目標に掲げ、過年度に取組んだ以下の 5 つの活動について概要を報告しています。

- (1) 河川再生に関わる情報共有基盤整備
- (2) 河川再生の普及・啓発に向けた行事等の実施
- (3) 河川再生に関わる調査研究
- (4) 河川再生に関する冊子等の発行
- (5) 河川再生の推進に向けた国内外団体の支援や協働

既に新年度が始まり四半期が過ぎましたが、平成 27 年度もネットワークに求められる繋げ役及び触媒的な機能を担いながら、河川再生に関わる情報共有基盤の更なる強化や国内外関係団体との協働活動に取り組み、河川再生の更なる推進に寄与する新たな価値を創出していきたいと思います。



※「JRRN 事業報告 2014 (JRRN Annual Report 2014)」ダウンロードはこちら

<http://jp.a-rr.net/jp/activity/annual/>

(JRRN 事務局・和田彰)

7月



(水戸八景 巖船の夕照：イバラキノートより)



(勤十堀：大洗町HPより)



あの日のあの川 リレー日記 ～第6話～



あの日のあの川
リレーDiary

みなさんはどこの川でどんなことをした記憶がありますか？幼少期や青春時代に体験した川での記憶を日記として掘り起こして語るコーナーです。リレー形式で毎回次の人にバトンをつなぎます。

第6話主人公 小沼 良輔

(筑波大学大学院システム情報工学研究科博士前期課程1年 白川(直) 研究室『川と人』ゼミ)

(□川ガール・■川系男子)
(出身地を流れる川：茨城県涸沼川)

『海の街の川』

いつのこと？：小学生時代

どこの川？：涸沼川

私の出身地は、茨城県の大洗町という海に隣接した町である。海水浴客は県下ナンバーワンであり、東日本大震災後に客数は減少したものの、平成13年には約40万人もの海水浴客が訪れた。また、大洗の町章は、「大洗」の「大」の字を図案化し、先端に大洗の象徴である波頭をつけたものであり、右に示す、町のマスコットキャラクターであるゆるキャラ「アライッペ」も、大洗特産の「シラス」や「ハマグリ」といった海産物をモチーフにしたものである。さらに、町のイベントとして地引網を行ったり、海の感謝祭という祭りを開催したりするなど、大洗では町として海を全面的に推している。



アライッペ

(大洗町HPより)

このような町で育ってきた私は、大洗といたら海！というイメージがとても強く、地元の河川について深く考えたこともなかった。しかし、大学院に進学し、それほど遠くもないが地元から離れ、また白川先生の研究室に所属して河川について学ぶようになってから、何気なく過ごしていた当たり前の日常の中で、川が身近にあったことを知った。そのことを知るようになった出来事の1つに、涸沼川の上流から河口まで辿ったフィールドトリップがある。

このフィールドトリップで涸沼川下流の大洗町を訪れた時、海の街大洗でも河川についての歴史があることを白川先生に教わった。例えば、水戸藩主徳川斉昭(烈公)が水戸八景として選定した「巖船の夕照(いわふねのせきしょう)」がある。この場所では、眼下で那珂川と涸沼川が合流し、はるかに筑

波山を望むことが出来る。ここは入口が木で覆われたトンネルのようになっており、私が小学生のころ秘密基地のような感覚で、放課後に兄や友人と駄菓子などを持ち寄って遊んでいた。また、目の前でトンビとカラスが争いを繰り広げ、恐怖しながらもその迫力に興奮していた思い出がある。

他にも、水戸藩が運河を掘ろうとした跡の勘十堀（かんじゅうぼり）がある。これは、「宝永年間（1704～1711年）、水戸藩が財政改革のため、松並勘十郎を起用し、江戸との水路として、鹿島灘・涸沼川・巴川の連絡を図って運河を掘りましたが失敗に帰した。大貫地内1キロメートル強の運河は数回にわたって埋め立てられ、現在は涸沼川に接するわずかな部分のみ残っている。（大洗町HPより）」というもので、現在はシジミ漁船などの係留施設となっている。この係留施設の近くには、田辺の渡し跡という渡船場の跡がある。川岸は沢山のシジミの貝殻で白くなっており、貝殻を踏みしめた時の何とも言えない感覚を未だに覚えている。

シジミと言えば、私の住んでいた地域では、涸沼で取れたシジミを自転車の荷台に乗せて売り歩いている方がいた。私の家にも時期によっては月に2度ほど立ち寄られ、学校帰りにその方を見かけると、「今日の晩御飯にシジミの味噌汁が出るかもしれない！」とわくわくしたものだ。このことを研究室の先輩に話したところ、自分の地域ではそのような人はいなかったと言われ、シジミを売りにきてくれないなんて、変わった地域に住んでいたのだなと思った。しかし、他の先輩方や友人に話すとみんな口をそろえて、そんな人はいなかったと驚かれ、シジミを売り歩くのは一般的ではなかったのか！と私自身が一番驚いた。

涸沼川沿いの公園にも思い出があった。その公園では友人がよく釣りをしており、私はそれをいつも眺めていた。一緒に釣りをしなかったのは、当時餌にしていたミズズグが怖く触れなかったためである。ある日、台風が近づいているので川沿いの公園に近寄らない様にと学校の先生に忠告された。しかし、曇天で雨が降っていなかったためか、友人と私は有ろう事かその公園に遊びに行ってしまった。ところが公園近くに先生がおり、こっぴどく怒られた。どれほど怒られたかという、台風が近づいているときには二度と川に近づかないと心に誓うほどである。今考えると先生には命を救ってもらったといっても過言ではなく、なんて馬鹿なことをしたのだろうと思っている。

リレー日記を託されたとき、海の街出身の自分に川の思い出があるのだろうか心配していたが、研究室でのフィールドトリップとこの日記を通して、自分が育ってきた中で、川は海と同じくらい大きなものを残していると実感することが出来た。

（次は中原結衣さんにバトンを託します）



（いばらき web タウンより）

水辺からのメッセージ No.74

岡村幸二 (JRRN 会員)

まちで憩^{やす}みたい：
木陰から覗かれるテラスからは高瀬川の流れだけが聞こえる



撮影：2015年6月（京都府京都市・高瀬川 三条小橋橋詰）

◆流れの音が心地よく聴こえる

京都の丸田町近く高瀬川において、水辺近くのテラスの使い方は何度か変化してきました。カフェらしきイスとテーブルに客が座って川を眺めればどんな風景に見えるか想像に難くないでしょう。

◆川底に敷かれた石の微妙な風合い

街なかを流れる幅がせまくて浅瀬の表情は、カフェやレストランでのゆったりした時間の流れとちょうど波長の合った風景がつくられています。

■ JRRN 会員皆様からの寄稿記事を募集しています！

旅先で見かけた水辺の風景や思い、水辺再生に関わる様々な活動報告、また河川環境再生に役立つ技術等、JRRN 団体・個人会員皆様からの寄稿記事をお待ちしています。(JRRN 事務局)

東彼杵町訪問について

筑波大学白川（直）研究室（JRRN 団体会員）
東彼杵プロジェクトチーム

1. 訪問概要

2015年5月29日（金）から31日（日）の3日間、筑波大学白川（直）研究室東彼杵プロジェクトチームの学生2名と指導教員1名が長崎県東彼杵町を訪問しました。今回の訪問は、「水辺からのまちおこし広場」での発表と現地調査が主な目的でした。

2. 日程

3日間の行程は以下の通りです。筆者は今年度からプロジェクトに新しく加入したため、初めての東彼杵町訪問でした。

- 29日午後 現地調査（俵坂関所跡、彼杵川周辺）
- 30日午前 現地調査（千綿川河口）、
水辺からのまちおこし広場
- 30日午後 魚道傾斜装置の公開実験、
現地調査（千綿溪谷）
- 31日午前 現地調査（江の串川・串川周辺、
四ツ池、大野原高原）

3. 「水辺からのまちおこし広場」

30日の午前10時から、東彼杵町総合会館にて第3回「水辺からのまちおこし広場」が開催されました（図1）。始めに彼杵おもしろ河川団の団長である坂本先生からのご挨拶があり、その後には3つの機関による発表が行われました。我々東彼杵プロジェクトチームからは、本プロジェクト設立の経緯とこれまでの取り組み、そして今後の展望について発表しました。今年は、昨年あまり手を付けることができなかった江の串川についても現地調査を行い、川の魅力を活かす案を考えていきたいと思っています。また、東彼杵町を「日本で最も美しい村連合」に登録することを目指し、町に存在する歴史や自然の名所と住民の人々の暮らしが繋がっていくようなまちづくりを提案することが出来ればと思います。

県北グリーンクラブの宮川さんからは、しじみの増殖と小学生へのシュノーケリング教室の取り組みについての発表がありました。また、東彼杵町役場まちづくり課の高坂さん、東彼杵清流会の池田さんからは彼杵川のアユの現状と溯上実験が行われることとなった経緯が説明されました。会の後には町長をはじめとする本プロジェクト関係者と主に夏の活動について話し合いが行われました（図2）。

4. 魚道傾斜装置の公開実験、交流会

「水辺からのまちおこし広場」の後には彼杵川河川公園にて魚道傾斜装置の公開実験が行われました（図3）。



図1 「水辺からのまちおこし広場」の様子



図2 会の後に行われた話し合いの様子



図3 魚道傾斜装置の公開実験の様子

彼杵川の堰には魚道が設置されているものの、魚道を上りきった後にある農業取水用の角落としが湖上の妨げとなっています。公開実験では傾斜板を設置することで実際の角落としと同じ高さの壁を何度かアユが飛び越え、湖上を成功させることができました。また傾斜板の形状を変え、どの形状が湖上に適しているのか検討を行いました。今回の実験を踏まえ、今後は湖上時の状態に近い小さなアユに対して実験を行う事と形状の再検討を行うことになりました。

夕方からは聖流庵に場所を移し、プロジェクトの関係者や住民の方々との交流会が行われました。会の始めには千綿川について歌った「清流千綿川～ほたるの郷よ」のお披露目がなされ、そばを流れる千綿川のせせらぎに合わせて参加者一同で合唱をしました(図4)。なお、作詞は八反田郷自治会愛護団体の林博義さんが行い、シンガーソングライターに加藤登紀子さんに作曲・補作詞をしていただきました(図5)。夜には、小雨のため数匹ではありましたが夜空に舞う蛍を見ることができました。普段蛍を見る機会の少ない私達にとっては、人々の生活のそばに蛍が存在しているというのは驚きでした。



図4 参加者による合唱の様子(聖流庵にて)

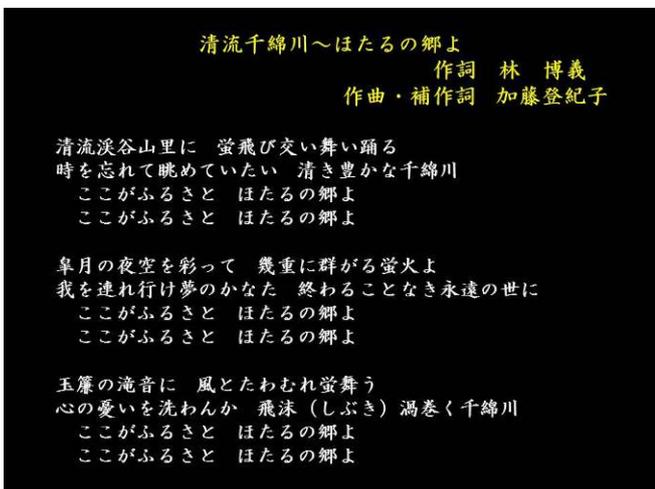


図5 清流千綿川～ほたるの郷よ 歌詞

5. 現地調査

29日の午後の時間を使って俵坂関所跡と彼杵川周辺の調査を行いました。かつて俵坂関所は、長崎街道において佐嘉と大村の分界の所となっており、吉田松陰が日記に記したことで知られています(図6)。また、周りには坂本郷の棚田が広がっていました(図7)。アユの遡上を妨げる角落としの設置されている地点や苺・アスパラガスの栽培されているビニールハウス、棚田などを見て回りました(図8, 9)。



図6 俵坂関所跡



図7 坂本郷の棚田



図8 彼杵川(二ノ瀬橋下流)

30日はまちおこし広場や溯上実験の間の時間を使って千綿川周辺（主に河口と千綿渓谷）を調査しました（図10）。千綿川上流域の渓谷は、儒学者として有名な広瀬淡窓もその自然美に驚嘆し、「千綿溪四十八潭」と自ら命名したとされています。この「千綿溪四十八潭」の中でも一番有名な龍頭泉は、ごつごつとした岩場をひたすら歩き進めていかなければなりません、それが苦にならない程壮大な景色でした（図11）。

最終日の31日には、江の串川・串川周辺、四ツ池、大野原高原の4か所を見て回りました。江の串川の下流は「やすらぎの里」河川公園として整備され、催し物などが開催されるなど町民の憩いの場となっているそうです。花などが植えられていてとても落ち着く場所でした（図12、13）。



図11 龍頭泉



図9 彼杵川の角落とし



図12 「やすらぎの里」河川公園



図10 千綿川河口



図13 河川公園に咲く花々

串川は上流部の手前で森林によって分断されており今回は調査することができませんでした。地元の人もあまり行ったことの無い場所だそうです。まちづくりに役立つ可能性を秘めているかもしれないので、夏の訪問時には調査できればと考えています（図14）。

四ツ池は、大村藩による水田開発の一環で作られました。江戸時代に鯨漁で巨万の富を得た深澤義太夫は、そこで得た利益をこの事業に投じ、東彼杵町発展の基礎に貢献しました。今回はその中の三井木場池、鹿ノ丸池の2つを訪れました（図15、16）。最後には、大野原高原を訪れました。この高原は龍頭泉の更に上側にあるのですが、千綿川溪谷の急な地形とは打って変わってなだらかな丘陵地となっています（図17）。

6. 今後について

今回の訪問では、東彼杵町にある多くの自然と文化の見どころを回ることができました。実際に現地を訪れたことで、まちづくりを考える上でイメージがしやすくなりました。本年度から加入した新たなメンバーとの間で今回の訪問の内容を共有してこれからの活動に役立てていければと考えています。今プロジェクトでは、新人の基礎学習の一環として東彼杵町誌（全2冊）の輪読勉強会を行っています。今後は夏の現地訪問に向け、東彼杵町に対して実際にどんな提案をすることができるかを考えていきます。



図15 三井木場池



図16 鹿ノ丸池



図14 串川



図17 大野原高原

（筑波大学白川（直）研究室 東彼杵プロジェクトチーム：川畑遼介，井坂七星，坂本貴啓，鴨志田穂高，森本健太，小沼良輔，金子貴洋，工藤拓哉，高鳥圭亮，日比野愛，前田紗希，山田怜奈，白川直樹）

※今回の訪問の参加者は 坂本，金子，白川

【JRRN 会員からの提供情報】

■「第 8 回いい川・いい川づくりワークショップ in 仙台 (8/29-30 日)」参加発表者募集 (7/20 〆切)

NPO 法人全国水環境交流会より、本年 8 月下旬に仙台にて開催される「第 8 回いい川・いい川づくりワークショップ」の参加(発表)者募集案内(応募〆切: 7/20)が届きました。

応募方法、発表方法など詳しい内容は、下記のホームページを参照ください。

◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/2077.html>

第8回いい川・いい川づくりワークショップ in 仙台

2015年8月29日(土)・30日(日)に開催します!

8/29(土): 11:00開会 ~18:10
: 全体会合/全体懇話会/テアタイム/交流懇話会
8/30(日): 9:00~15:30
: 現場見学/入選発表/発表者懇話会/二日連続/公開討論会
: 表彰式/懇話会/懇話会/懇話会/懇話会/懇話会

会場: 今回は、東京を離れ、宮城県仙台市での開催となります。
東北工業大学(八木山キャンパス)
[宮城県仙台市八木山八木山キャンパス1号館]

日本のいい川・いい川づくり公開選考会

◎ 募集要項(大会概要)

◎ 応募申込書(様式1)

【応募期間: 7月20日(月)】

・エクスカーション(8月28日)のご案内

【ご応募ください】

▼ 応募要項(募集要項)も、ご参照ください。

【会場・申込の案内】

※応募要項・申込書の詳細は、事務局にご確認ください。

※応募要項・申込書の詳細は、事務局にご確認ください。

※応募要項・申込書の詳細は、事務局にご確認ください。

※応募要項・申込書の詳細は、事務局にご確認ください。

【JRRN 会員からの提供情報】

■平成 27 年度いい川づくり研修会—第 1 回 中予地区 (7/21 開催)

「鞍瀬塾」より、愛媛県松山市で 7 月 21 日に開催される「平成 27 年度いい川づくり研修会—第 1 回 中予地区」のご案内を頂きました。(申込〆切: 7 月 14 日)

今回のテーマは「氾濫原環境の保全と再生について」です。

◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/2093.html>



平成27年度いい川づくり研修会のお知らせ
—第1回 中予地区—

【JRRN 会員からの提供情報】

■観光に貢献するインフラを紹介する「沖縄観光インフラカード」配布開始

観光に貢献するインフラを広く判り易く理解してもらうために企画・制作された「沖縄観光インフラカード」の配布が始まりました。

本企画やデザインは、JRRN 会員である東京学芸大学の吉富研究室や正木研究室を中心に進められ、ダムや水族館など水辺に関わる施設のカードも多数登場しています。

◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/2097.html>



【JRRN 会員からの提供情報】

■映画上映会&討論会「川はだれのものか〜大川郷に鮭を待つ〜」(7/10 開催)

上智大学・伊藤毅先生からの映画上映会の案内です。上智大学では、川に関する映画の製作者である菊地文代さんをお招きしての上映会と討論会を開催します。

JRRN 会員の皆様の中におかれましては、ご関心のある方も多いのではないかと思いますので、ご関心のある方に当日来ていただければ幸いです。

◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/2109.html>



Who Owns Rivers? Waiting for Salmon at the Obata River

【海外からの提供情報】

■「ECRR (欧州河川再生センター) の最新ニュースレター」ご紹介

ECRR (欧州河川再生センター) の最新会報 (2015 年 5 月号) を ECRR 事務局より送付頂きました。

本号では、ECRR の新組織体リニューアル報告、2014 年欧州河川賞受賞河川紹介、欧州の自然を活かした流域保水力強化策に関わる複数の手引の紹介記事等が掲載されています。

◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/2083.html>



【海外からの提供情報】

■「RRC (英国河川再生センター) の最新会報 (Bulletin)」ご紹介

RRC (英国河川再生センター) の最新会報 (2015 年 6 月号) を RRC 事務局より送付頂きました。

本号では、第 16 回 RRC 年次講演会開催報告と関連資料一式紹介、本年の英国河川賞受賞河川案内、英国の流域連携行動基金などが紹介されています。

◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/2089.html>



(国内の河川・流域再生に関する主なイベント)

※前頁でご案内した行事は本欄では掲載していません。

■川の流れ体験 in 多摩川

○日時：2015年7月5日(日) 13:00-15:00
○主催：子どもの水辺サポートセンター
○場所：狛江水辺の楽校(東京都狛江市)
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2146.html>

■水辺関心創造アクション「水辺で乾杯」

○日時：2015年7月7日(火) 19:07
○主催：ミズベリング
○場所：全国の水辺
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2148.html>

■生物多様性民間参画シンポジウム in 東京

○日時：2015年7月27日(月) 13:30-17:00
○主催：環境省
○場所：損保会館 2F 大会議室(東京都千代田区)
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2154.html>

■第9回「奏」-外濠水上コンサート-

○日時：2015年7月29日(水) 18:30-20:30
○主催：KANADE 実行委員会
○場所：カナルカフェ(東京都新宿区)
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2152.html>

■第20回水シンポジウム 2015 in ふくい

○日時：2015年8月27日(木)～28日(金)
○主催：第20回水シンポ 2015 in ふくい実行委員会
○場所：福井県民ホール(福井県福井市)
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2132.html>

■第8回いい川・いい川づくりワークショップ in 仙台

○日時：2015年8月29日(土)～30日(日)
○主催：いい川・いい川づくり実行委員会
○場所：東北工業大学(宮城県仙台市)
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2126.html>

■水文・水資源学会 2015年度研究発表会(東京大会)

○日時：2015年9月9日(水)～11日(金)
○主催：水文・水資源学会
○場所：首都大学東京 南大沢キャンパス
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2144.html>

■応用生態工学会 第19回大会

○日時：2015年9月10日(木)～13日(日)
○主催：応用生態工学会
○場所：日本大学工学部キャンパス(福島県郡山市)
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2128.html>

(海外の河川・流域再生に関する主なイベント)

- 2015.8.2-7(シンガポール) 7th APHW Conference
- 2015.9.21-23(ブリスベン/オーストラリア) 18th International Riversymposium
- 2015.11.2-6(アムステルダム/オランダ) Amsterdam International Water Week
- 2015.11.9-10(ウィーン/オーストリア) European River Symposium 2015
- 2016.2.8-12(メルボルン/オーストラリア) 11th Int. Symposium on Ecohydraulics
- 2016.7.27-29(リエージュ/ベルギー) 4th IAHR Europe Congress
- 2016.8.29-31(コロンボ/スリランカ) 20th Cong. of IAHR Asia Pacific Division
- 2016.9.19-22(Stuttgart/ドイツ) 13th Int. Sympo. on River Sedimentation

書籍等の紹介 *Publications*

■ **できることからはじめよう 水辺の小さな自然再生事例集 (2015.3 発刊)**

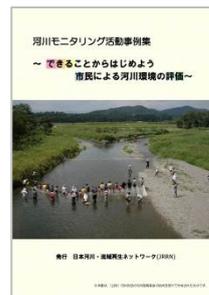
- ・監修：玉井信行 東京大学名誉教授 / JRRN 顧問
- ・編集：「小さな自然再生」事例集編集委員会
- ・デザイン：本間由佳 鶴川女子短期大学
- ・発行：日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN)
- ・出版年月：2015年3月



市民が河川管理者と連携して日曜大工的に取り組む「小さな自然再生」の事例集です。小さな自然再生の実践を通じてその技術普及に尽力されている専門家の方々、専門知識の社会への橋渡しの専門家、そして有志の若手研究者や実務者で協働制作しました。

■ **河川モニタリング活動事例集～できることからはじめよう 市民による河川環境の評価～(2014.3 発刊)**

- ・監修：白川直樹 筑波大学准教授 (JRRN 理事)
- ・執筆協力：河川再生に携わる市民団体や行政機関
- ・編集：JRRN 事務局、筑波大学白川(直)研究室
- ・発行：日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN)
- ・出版年月：2014年3月



市民が主体的に取り組む河川環境のモニタリング活動の実態を調べ、各地のモニタリング活動事例や市民による河川モニタリング活動の更なる活性化に向けたヒントを紹介しています。

■ **上記冊子の「印刷製本版」入手方法** ※PDF版はこちらから：<http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/>

JRRN 事務局までご連絡ください。送料のみご負担頂いた上で、無料で提供致します。(JRRN 会員限定)

Email: info@a-rr.net / 電話：03-6228-3862

■ JRRN の登録資格 (団体・個人)

JRRN への登録は、団体・個人を問わず無料です。
市民団体、行政機関、民間企業、研究者、個人等、所属団体や機関を問わず、河川再生に携わる皆様のご参加を歓迎いたします。

■ 会員の特典

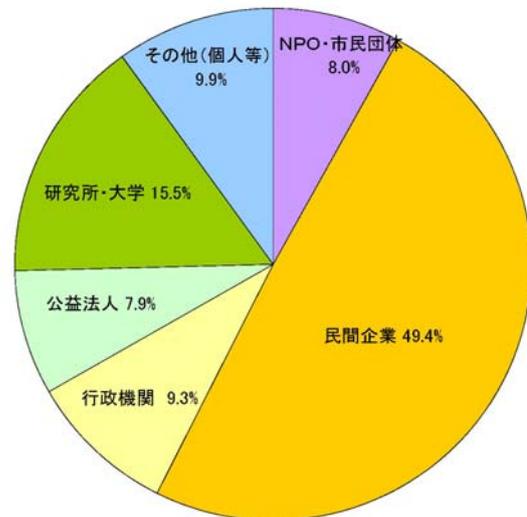
会員登録をされた方々へ、様々な「会員の特典」をご用意しています。

- (1) 国内外の河川再生に関するニュースを集約した「JRRN ニュースメール」が週 1 回メール配信されます。
- (2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参加することが出来ます。
- (3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集の支援を受けられます。
- (4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベント開催案内等を国内外に発信できます。
- (5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河川再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援を受けられます。

■ 会員登録方法

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.a-rr.net/jp/member/registration.html>



2015年6月30日時点の個人会員構成
(個人会員数：700名、団体会員数：56団体)

JRRN 会員特典一覧表(団体会員・個人会員)

提供サービス	JRRN 個人会員	JRRN 団体会員	非会員 (一般)
1 ホームページへのアクセス及び記事へのコメント入力 ※1	◎	◎	◎
2 ホームページ「イベント情報」欄でのイベント掲載 ※2	◎	◎	◎
3 ニュースメール(週1回)の配信 ※3	◎	◎	×
4 Newsletter(毎月)及び年次報告書(年1回)等の発刊案内メールの配信 ※3	◎	◎	×
5 JRRN/ARRN主催行事の優先案内・優先参加 ※4	◎	◎	×
6 国内外の河川再生関連情報・技術収集や専門家・組織紹介の支援 ※5	◎	◎	×
7 ホームページ「会員からのお知らせ」内及びニュースメール「会員からのご案内」欄で団体が関わる行事・出版物・製品等の案内の掲載 ※6	△※7	◎	×
8 ホームページ「会員登録状況」「国内団体」内及び年次報告書内で団体名の掲載	×	◎	×
9 ARRN活動に関連する英語ニュース(ARRN Newsletter等)の不定期配信 ※8	×	◎	×
10 JRRN及びARRNが保有する国内外専門家・団体等との連携等の支援 ※9	×	◎	×

会員特典詳細はウェブサイト参照：<http://www.a-rr.net/jp/member/benefit.html>

【お気軽にお問い合わせください】

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局



〒104-0033 東京都中央区新川1丁目17番24号 新川中央ビル7階

公益財団法人リバーフロント研究所 内

Tel: 03-6228-3862 Fax: 03-3523-0640 E-mail: info@a-rr.net

URL: <http://www.a-rr.net/jp/> Facebook: <https://www.facebook.com/JapanRRN>

JRRN 事務局は、「アジアにおける河川再生のためのネットワーク構築と活用に関する研究」の一環として、公益財団法人リバーフロント研究所と株式会社建設技術研究所国土文化研究所が公益を目的に運営を担っています。

